

令和5年度

全国学力・学習状況調査報告書

令和5年10月

当別町教育委員会

目 次

I 調査について	1
II 学力調査の状況	2
1) 教科ごとの平均正答率と平均正答数	
2) 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率	
3) 全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合	
4) 経年変化	
5) 結果概要	
III 学習状況調査(児童生徒質問紙・学校質問紙)の状況	4
1) 生活習慣	
2) 家庭学習	
3) 自己有用感	
4) 授業改善	
5) 各教科の授業	
6) I C T機器の活用	
7) その他の項目	
IV 令和6年度当別町学力向上プラン	12

I 調査について

1 目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象学年

- (1) 小学校（義務教育学校）第6学年
- (2) 中学校第3学年（義務教育学校第9学年）

3 内容

- (1) 教科に関する調査

対象教科	国語、算数・数学、英語（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）
出題範囲	原則として、調査する前年の前学年までに含まれる指導事項
出題内容	①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 調査問題では、①と②を一体的に問う
出題形式	記述式の問題を一定割合で導入

- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 期日

令和5年4月18日（火）

※中学校英語（話すこと）及び児童生徒質問紙は、日程を分散して実施

5 実施した学校及び児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校 (義務教育学校 前期課程を含む)	2校	88人	82人	93.2%
中学校 (義務教育学校 後期課程を含む)	2校	113人	100人	88.5%
合計	4校	201人	182人	90.5%

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除いた人数。

Ⅱ 学力調査の状況

1 教科ごとの平均正答率と平均正答数

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語		算数	
	平均正答率（％）	平均正答数/問題数	平均正答率（％）	平均正答数/問題数
当別町	71.2	10.0/14	63.6	10.2/16
北海道	66.0	9.2/14	61.0	9.8/16
全国	67.2	9.4/14	62.5	10.0/16
全国との差	+ 4.0	+ 0.6	+ 1.1	+ 0.2

(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

	国語		数学		英語（聞くこと・読むこと・書くこと）		英語（話すこと）	
	平均正答率（％）	平均正答数/問題数	平均正答率（％）	平均正答数/問題数	平均正答率（％）	平均正答数/問題数	平均正答率（％）	平均正答数/問題数
当別町	69.7	10.5/15	48.8	7.3/15	47.2	8.0/17	18.0	0.9/5
北海道	69.0	10.4/15	49.0	7.4/15	44.0	7.5/17	(非公表)	(非公表)
全国	69.8	10.5/15	51.0	7.6/15	45.6	7.7/17	12.4	0.6/5
全国との差	▲ 0.1	+ 0.0	▲ 2.2	▲ 0.3	+ 1.6	+ 0.3	+ 5.6	+ 0.3

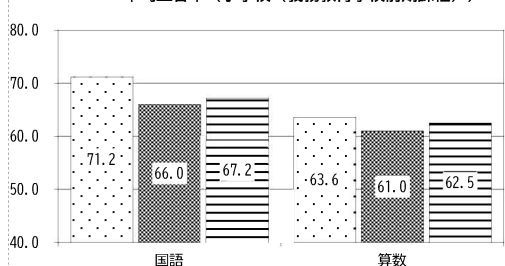
※平均正答率は、国から提供されたデータをもとに、町教委が独自に算出した小数値を記載。

※平均正答数は、国から提供されたデータによる。

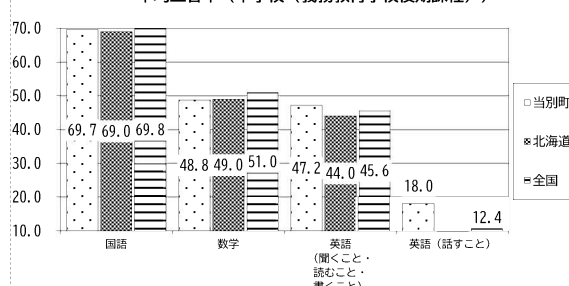
※()内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語、算数ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。

平均正答率（小学校（義務教育学校前期課程））



平均正答率（中学校（義務教育学校後期課程））



2 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語 (言葉の 特徴や使 い方に 関する事 項)	国語 (情報の 扱い方に 関する事 項)	国語 (話すこ と・聞く こと)	国語 (書くこ と)	国語 (読むこ と)	算数 (数と計 算)	算数 (図形)	算数 (変化と 関係)	算数 (データの 活用)
問題数	5/14	2/14	3/14	1/14	3/14	6/16	4/16	4/16	3/16
正答率	当別町 103.5	106.8	105.8	114.2	108.4	95.7	108.1	102.0	103.1
	北海道 97.9	97.5	99.2	88.0	97.9	95.7	101.0	97.3	97.6
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無解答率	当別町 81.3	35.3	88.2	16.9	44.1	91.3	53.1	113.2	106.1
	北海道 98.8	94.1	96.8	108.5	102.7	113.3	105.3	115.8	109.6
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

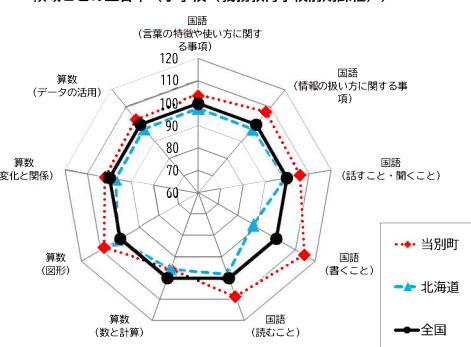
	国語 (言葉の 特徴や使 い方に 関する事 項)	国語 (情報の 扱い方に 関する事 項)	国語 (我が国 の言語文 化に 関する事 項)	国語 (話すこ と・聞く こと)	国語 (書くこ と)	国語 (読むこ と)	数学 (数と 式)	数学 (図形)	数学 (関数)	数学 (データ の活用)	英語 (聞くこ と)	英語 (読むこ と)	英語 (書くこ と)	英語 (話すこ と【やり 取り】)	英語 (話すこ と【発表 】)
問題数	2/15	2/15	3/15	3/15	2/15	4/15	5/15	3/15	4/15	3/15	6/17	6/17	5/17	4/5	1/5
正答率	当別町 105.2	101.7	99.5	97.3	101.3	93.9	96.5	93.4	98.2	92.2	99.7	104.5	112.8	148.3	95.2
	北海道 98.4	100.5	99.7	99.5	98.3	99.4	97.9	99.1	97.1	91.8	99.5	95.1	90.2	(非公表)	(非公表)
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無解答率	当別町 110.1	173.9	113.8	144.1	111.1	106.7	93.3	73.0	59.8	88.8	0.0	0.0	110.0	60.9	96.8
	北海道 106.4	95.7	104.1	109.0	114.8	108.7	116.5	106.8	114.1	113.7	100.0	88.9	114.9	(非公表)	(非公表)
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※教科の領域別に全国を100とした場合の状況を示したもの。

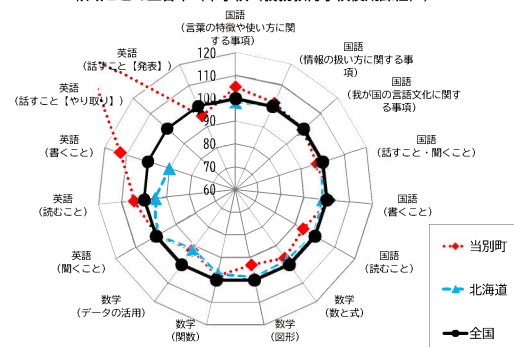
※（当別町児童生徒の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

※1つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数と一致しない。

領域ごとの正答率（小学校（義務教育学校前期課程））



領域ごとの正答率（中学校（義務教育学校後期課程））



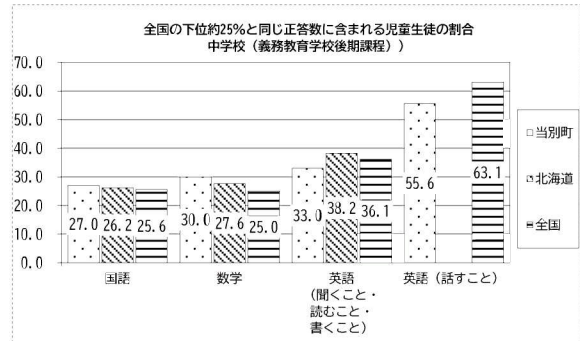
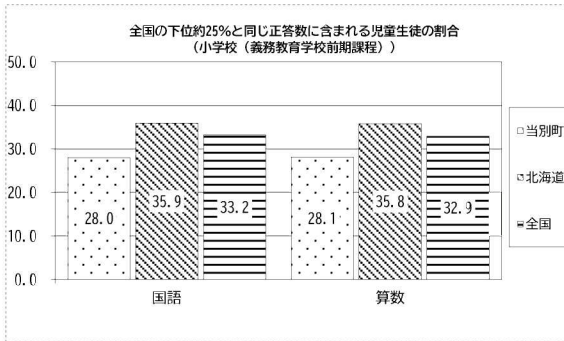
3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語	算数
当別町	28.0%	28.1%
北海道	35.9%	35.8%
全国	33.2%	32.9%
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合	14問中8問以下	16問中8問以下
全国との差	▲ 5.2 少ない	▲ 4.8 少ない

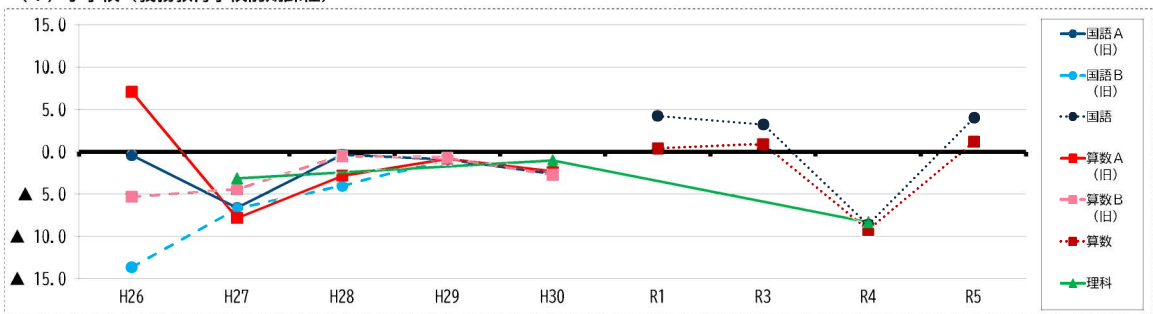
(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

	国語	数学	英語（聞くこと・読むこと・書くこと）	英語（話すこと）
当別町	27.0%	30.0%	33.0%	55.6%
北海道	26.2%	27.6%	38.2%	(非公表)
全国	25.6%	25.0%	36.1%	63.1%
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合	15問中8問以下	15問中4問以下	17問中5問以下	5問中0問
全国との差	+ 1.4 多い	+ 5.0 多い	▲ 3.1 少ない	▲ 7.5 少ない

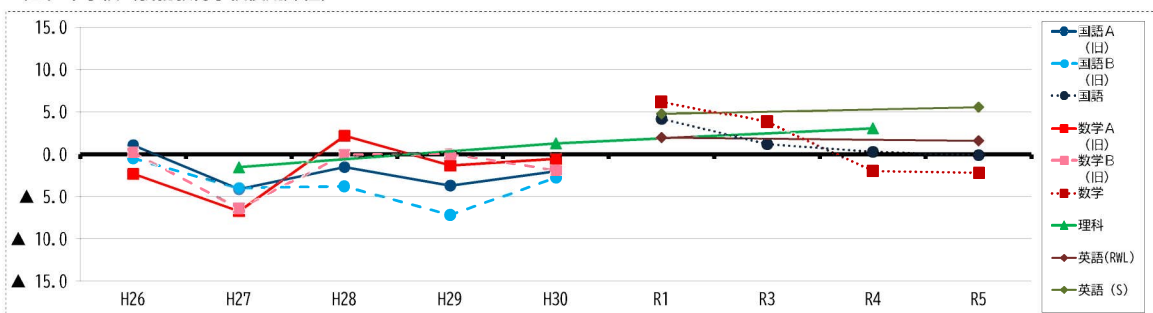


4 経年変化

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）



(2) 中学校（義務教育学校後期課程）



※全国平均正答率との差を表示。
※理科・英語は3年ごとに実施。
※令和2年度は中止。

5 結果概要

- ・小学校の全科目（国語・算数）及び中学校の英語（聞くこと・読むこと・書くこと、話すこと）で全国平均を上回り、中学校の国語においては全国平均との差が0.1と僅差になりました。
- ・中学校の英語（話すこと）は、設問の難易度が高く、正答率の全国平均が12.4%に留まりましたが、当別町においては、正答率が全国平均を5.6ポイント上回る結果となりました。
- ・領域ごとの正答率は、小学校の9領域中8領域及び中学校の15領域中6領域で、全国平均を上回っています。
また、全国と比較して正答率が特に高い（105以上）領域は、小学校国語の「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、小学校算数の「図形」、中学校国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び中学校英語の「書くこと」「話すこと【やり取り】」となっています。
- ・領域ごとの無解答率は、小学校の9領域中7領域及び中学校の15領域中8領域で、全国平均を下回っており、無解答者が少なくなっています。
- ・小学校の全科目（国語・算数）及び中学校の英語（聞くこと・読むこと・書くこと、話すこと）で、全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合が、全国平均と比較して少なくなっていることから、学力に課題のある児童生徒が、全国平均と比較して減少傾向となっています。
- ・小学校の全科目及び中学校の英語（話すこと）で、前回実施時より正答率が上昇しています。

Ⅲ) 学習状況調査（児童生徒質問紙・学校質問紙）の状況

1. 生活習慣

(1) 児童生徒質問紙

①朝食を毎日食べている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	（前年度比）	全国平均	全国比
小学校6年生	98.8%	(+14.0%)	93.9%	+4.9%
中学校3年生	85.0%	(-8.9%)	91.2%	-6.2%

②毎日、同じくらいの時刻に寝ている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	（前年度比）	全国平均	全国比
小学校6年生	90.3%	(+15.7%)	81.0%	+9.3%
中学校3年生	75.0%	(-3.8%)	78.0%	-3.0%

③毎日、同じくらいの時刻に起きている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	（前年度比）	全国平均	全国比
小学校6年生	92.7%	(+1.2%)	90.5%	+2.2%
中学校3年生	95.0%	(+4.1%)	91.3%	+3.7%

(2) 学校質問紙

①教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	86.7%	+13.3%
中学校	100.0%	(±0.0%)	83.2%	+16.8%

【傾向】

- ・朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校では全国平均を上回り、中学校では全国平均を下回っています。
前年度との比較では、小学校では前年度の結果を上回っていますが、中学校では前年度の結果を下回っています。
- ・毎日、同じ時間に寝ている（起きている）児童生徒の割合が、中学校の寝ている時間を除き、全国平均を上回っています。
前年度との比較では、中学校の寝ている時間を除き、全国平均を上回っています。

【分析】

- ・朝食を毎日食べる習慣・規則正しい睡眠習慣については、小学校では定着が進んでいる一方で、中学校では定着に向けて課題がある状況です。
- ・規則正しい生活習慣の定着には、家庭の教育が果たす役割が大きいことから、学校においては引き続き、教育課程の趣旨について、家庭や地域と情報共有を進め、相互に連携を図っていくことが求められます。

2. 家庭学習

(1) 児童生徒質問紙

①家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	88.0%	(+15.1%)	70.7%	+17.3%
中学校3年生	59.0%	(-10.7%)	55.0%	+4.0%

②土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

（「2時間以上」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	19.2%	(+2.2%)	24.7%	-5.5%
中学校3年生	42.0%	(-0.4%)	40.0%	+2.0%

③学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

（「1時間以上」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	21.7%	(+4.7%)	18.5%	+3.2%
中学校3年生	15.0%	(+2.9%)	13.8%	+1.2%

(2) 学校質問紙

①家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	95.7%	+4.3%
中学校	100.0%	(±0.0%)	90.9%	+9.1%

②学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	90.6%	+9.4%
中学校	100.0%	(±0.0%)	84.4%	+15.6%

【傾向】

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。

【分析】

- ・家庭学習の習慣や読書の習慣は、おおむね定着している状況です。
- ・より効果的に家庭学習を行うためには、学校における継続的な指導が大切です。また、家庭学習の成果を今後の指導に生かすことは、学力の定着にもつながるため、引き続き、家庭学習を効果的に行うための調査研究や家庭への啓発に取り組むことが重要です。

3. 自己有用感

(1) 児童生徒質問紙

①自分には、よいところがあると思いますか（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.6%	(+22.9%)	83.5%	+2.1%
中学校3年生	85.0%	(-2.9%)	80.0%	+5.0%

②将来の夢や目標を持っている（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.0%	(+11.0%)	81.5%	+12.5%
中学校3年生	75.0%	(-12.9%)	66.3%	+8.7%

③いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	97.6%	(+1.0%)	96.9%	+0.7%
中学校3年生	98.0%	(-1.0%)	95.5%	+2.5%

(2) 学校質問紙

①将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	86.5%	+13.5%
中学校	100.0%	(±0.0%)	98.6%	+1.4%

②学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）の取組を行った（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	98.9%	+1.1%
中学校	100.0%	(±0.0%)	98.3%	+1.7%

【傾向】

- ・「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」の項目で、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。

【分析】

- ・自己有用感が高い児童生徒、将来の夢を持った児童生徒、いじめを許さない児童生徒が多い傾向にあります。
- ・とうべつ未来学等を通じて、将来のキャリアについて考える指導をよく行っていることが、将来の夢を持った児童生徒の多さにつながっていると思われます。
- ・学校と家庭が連携し、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する取組をいっそう進めることで、自己有用感の向上やいじめを許さない心の醸成をより進めることができると考えられます。

4. 授業改善

(1) 児童生徒質問紙

①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.6%	(+5.9%)	78.8%	+6.8%
中学校3年生	87.0%	(+5.1%)	79.2%	+7.8%

②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	96.4%	(+13.4%)	81.8%	+14.6%
中学校3年生	82.0%	(+6.2%)	79.7%	+2.3%

③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	82.0%	(+0.7%)	77.4%	+4.6%
中学校3年生	69.0%	(+2.3%)	69.2%	-0.2%

(2) 学校質問紙

①学習指導において、児童生徒が、それぞれの良さを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%		94.3%	+5.7%
中学校	100.0%		94.2%	+5.8%

②習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	89.0%	+11.0%
中学校	100.0%	(±0.0%)	87.7%	+12.3%

【傾向】

・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に関する項目について、小学校・中学校ともに全国平均をおおむね上回っています。

【分析】

・学習指導において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業内容の工夫・改善に取り組んだことにより、児童生徒が対話活動を通じて、自らの学びを深めることができつつあることが伺えます。

5. 各教科の授業

(1) 児童生徒質問紙

①国語の授業の内容はよくわかる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	97.6%	(+19.6%)	85.7%	+11.9%
中学校3年生	82.0%	(+3.2%)	80.0%	+2.0%

②算数／数学の授業の内容はよくわかる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	88.0%	(+1.5%)	81.2%	+6.8%
中学校3年生	78.0%	(+2.2%)	73.3%	+4.7%

③英語の勉強は好きですか（小）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

英語の授業の内容はよくわかる（中）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	81.9%		69.3%	+12.6%
中学校3年生	63.0%		63.9%	-0.9%

④国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか（小）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか（中）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	90.4%		76.8%	+13.6%
中学校3年生	65.0%		65.9%	-0.9%

⑤国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか（小）

国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか（中）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	83.2%		71.1%	+12.1%
中学校3年生	67.0%		63.9%	+3.1%

⑥国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか（小）

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか（中）（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	86.7%		82.3%	+4.4%
中学校3年生	73.0%		77.2%	-4.2%

(2) 学校質問紙

- ①言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%		95.6%	+4.4%
中学校	100.0%		93.4%	+6.6%

- ②授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	98.5%	+1.5%
中学校	100.0%	(±0.0%)	94.7%	+5.3%

- ③調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	100.0%		90.3%	+9.7%
中学校3年生	100.0%		96.2%	+3.8%

- ④調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行いましたか（小）「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか（中）（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	100.0%		93.2%	+6.8%
中学校3年生	100.0%	(±0.0%)	94.0%	+6.0%

【傾向】

- ・各教科の授業の内容について、「よくわかる」と回答した児童生徒の割合が、中学校の英語を除き、全国平均を上回っています。
- ・国語の授業について「立場や考えの違いに沿って伝え方を工夫しているか」「自分の考えを伝えるための工夫をしているか」「物語を読むときに描写をもとに心情をとらえているか」について、小学校では3項目、中学校では1項目で全国平均を上回っています。

【分析】

- ・各教科の特質に応じた言語活動や実践的な研修、学習評価の結果を指導の改善に生かすなどの取組により、各教科の授業の内容を「よくわかる」と回答した児童生徒の割合が、おおむね全国平均を上回ったものと考えられます。
- ・児童質問紙④～⑥は、今回初出の項目ですが、各教科において、話し合い活動を積極的に取り入れ、「異なる意見を生かす」「聞き手の立場に立って話すよう工夫する」指導を行ってきたことにより、おおむね全国平均を上回ったものと考えられます。

6. ICT機器の活用

(1) 児童生徒質問紙

①これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	57.8%	(-8.3%)	62.4%	-4.6%
中学校3年生	62.0%	(+19.5%)	61.1%	+0.9%

②学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(「1時間以上」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	13.2%	(-8.9%)	17.9%	-4.7%
中学校3年生	14.0%	(-7.3%)	13.4%	+0.6%

③家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか

(「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回程度」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	20.4%		29.5%	-9.1%
中学校3年生	28.0%		22.9%	+5.1%

(2) 学校質問紙

①前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	88.5%	+11.5%
中学校	100.0%	(±0.0%)	89.1%	+10.9%

②教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

(「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	(±0.0%)	95.9%	+4.1%
中学校	100.0%	(±0.0%)	91.5%	+8.5%

③あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

(「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」と回答した割合)

	令和5年度結果	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	0.0%	(±0.0%)	32.5%	-32.5%
中学校3年生	0.0%	(±0.0%)	40.9%	-40.9%

【傾向】

- ・「授業においてＩＣＴ機器を週３回以上使用した」「普段１時間以上ＩＣＴ機器を勉強のために使っている」「週１回以上ＩＣＴ機器を使用して英語に触れている」と回答した児童生徒の割合が、小学校では全国平均を下回り、中学校では全国平均を上回っています。

【分析】

- ・小学校において、ＩＣＴの活用状況に課題が見られたものの、学校においては、ＩＣＴ機器を活用した授業を積極的に行ったり、効果的な活用に向けた研修に取り組んだりするなど、ＩＣＴ活用に向けた授業改善に取り組んでいます。
- ・ＩＣＴ端末の持ち帰りについては、全国平均を大きく下回っています。児童生徒の積極的な活用に向け、端末の持ち帰りを進めていくことが課題となっています。



●当別町の学力の状況（令和5年度「全国学力・学習状況調査」平均正答率）

	国語	算数／数学	英語 (聞くこと・読むこと・書くこと)	英語 (話すこと)
小学校	71.2% (全国平均以上)	63.6% (全国平均以上)		
中学校	69.7%	48.8%	47.2% (全国平均以上)	18.0% (全国平均以上)

成果

- 小学校全教科、中学校2教科で全国平均以上
- 児童生徒間の学力差の縮小
- 家庭学習習慣の定着
- 無解答率の減少
- 国語の授業改善

課題

- 記述式問題への継続した対応
- 規則正しい生活習慣の定着
- I C Tの日常的活用
- 支援が必要な「伸びしろ層0」への対応

課題へのアプローチ

- 対話を重視した学びへの授業転換
- I C Tを活用した個別最適・協働的な学び
- 授業や家庭学習におけるA Iドリルの活用
- 「伸びしろ層0」に向けた学びの充実
- 「学びのハンドブック」「家庭学習サポートブック」の活用した家庭学習支援

R6年度 目標 (当別町第6次 総合計画)

「全国学力・学習状況調査」全教科全国平均以上



未来を拓く9年間



当別町小中一貫教育